

第3章 施策の方向性

1 基本目標

本計画は、前計画の基本的な考え方を継承し、基本目標を次のとおりとします。

**ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成で
つくる心豊かな県民生活と活力ある千葉県**

文化芸術は、人々がゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していくうえで、欠かせないものであるとともに、個人としての、また様々な団体や組織、社会の一員としての、誇りやアイデンティティーを醸成する、心の拠り所となるものです。

また、文化芸術は、教育、福祉、まちづくり、観光・産業など、社会の様々な分野とかがわりのある活動であり、地域社会を持続的に発展させ、県民の活力を高めていくものでもあります。

本計画では、文化芸術活動の振興はもとより、文化芸術と社会の様々な分野とのかかわりによる波及効果を重視し、文化芸術を生かしたまちづくりや観光・産業等様々な分野での文化芸術の活用を推進します。そして、東京2020大会を文化振興施策の一層の推進の契機とし、様々な取り組みを通して、心豊かに暮らすことができ、活力ある地域社会をつくり、「暮らし満足度日本一」を感じ、誇れる千葉を実現します。

指標	現状 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
この1年間に 文化芸術にふれた県民の割合	65.4%	70.0%

2 取り組むべき課題

前計画での取組や文化芸術を取り巻く諸情勢の変化を踏まえ、今後さらに総合的かつ効果的な文化振興施策の推進を図るため、本計画で取り組むべき課題を整理すると、下図のようになります。

社会的背景

- 少子高齢化による地域コミュニティの衰退と担い手不足 など
- 子どもが文化芸術に親しむ機会の充実や、地域の芸術や祭りの継承・保存が求められている
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化振興と地域活性化への期待

<文化芸術を取り巻く現状と課題>

だれもが等しく文化芸術を鑑賞し、参加し、創造することができるような機会の提供が必要である

特に、子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実が求められている

少子高齢化により、地域の芸術や祭りなどの担い手不足から、後継者育成は急務である

地域独自の文化芸術や歴史を活かしたまちづくりが求められている

若い世代の多様な創造活動が発信されており、いかに地域に引き込むかが課題となっている

地域文化・文化芸術に関する情報提供がより一層求められている

関係機関の一層の連携、さらに観光や産業等の幅広い分野との連携が必要である

文化施設の機能充実が必要である

文化資源を活用して地方創生の実現を図る

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの実施により、文化振興と地域活性化を図る

<取り組むべき課題を踏まえた次期計画の柱と施策・取組>

1. 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり

あらゆる人々が文化芸術を享受するために、文化芸術にふれ親しむ機会の提供などを行います。

- 様々な場での環境機会の提供
- 学校教育における文化芸術活動の充実 など

2. 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり

地域の伝統文化が次世代へ継承されるとともに、地域活性化につながるよう側面支援を行います。

- 担い手の育成
- 文化芸術を活用したまちづくり
- 日本遺産認定への取組 など

3. ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出

多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信します。

- 新たな創造活動の情報発信
- 県内外の文化施設による共同事業・広報協力 など

4. 総合的な推進のための支援・連携体制の構築

関係機関や幅広い分野との連携の強化を図ります。

- 観光等の幅広い分野との連携
- 文化施設の機能の充実 など

5. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上

文化プログラム関連イベントの実施を文化振興と地域活性化につなげます。

- あらゆる人々が参加・出演できる文化事業の実施
- 多様な分野との連携による文化資源の活用 など